

武蔵・秩父・甲斐 花の散歩  
(平成 27 年 3 月 31 日～4 月 2 日)

<1> 第一部：武蔵の部

1-1 野山北・六道山公園

武蔵村山市の北部、狭山丘陵の一角にある「野山北・六道山公園」でカタクリの花が見事に咲いているとの情報をかみさんがどこかから入手してきたことから、見に行くことになった。詳細を調べて見たら、狭山湖の南岸の山なみの中にあることがわかった。尾根上に並ぶ野山北公園と六道山公園がつながっていて近隣に住む人にとって絶好の遊び場になっているようだ。

中央自動車道を西に進み国立府中 IC で下りて、立川市・昭島市・武蔵村山市と北上を続けると正面に低い山が立ちはだかる。これが狭山丘陵で、海拔 150m 余の稜線の向こう側には狭山湖が広がり埼玉県入間市になる。

谷沿いの道を進むと日帰りの湯の隣に駐車場があった。快晴の空の下、平日ながら家族連れの散策やランニング姿が目立つ。途中で買ってきた昼食用のパンを食べてから散策開始。

駐車場から 5 分ほどの所には家族連れで遊べるような遊具や池が続き、さらにその奥へ進んで行くと山の斜面が薄桃色または薄紫色に見えてきた。公称 2 万本のカタクリの群生。



このところ雨がでないせいと高温が続いたせいか、やや花の色が薄目で葉の色も鮮やかとは言い難い感じだった。それでも群生しているとかなり見ごたえはある。遊歩道から撮影をしながら一巡して、存分にカタクリを味わった。

本日の宿泊地は秩父市内なので、入間から飯能に入り吾野へ。正丸峠をトンネルで抜けるだけではつまらないので、吾野から 6 年生の時に遠足で行った子の権現・天目指峠を経て山伏峠を越えて芦ヶ久保へ下ってみた。

◆野山北・六道山公園 <http://www.sayamaparks.com/noyama/>

<2> 第二部：秩父の部

2-1 秩父神社

秩父市内に入って最初の立ち寄り先は秩父神社。秩父へは何度か来ているし登山の行き帰りにも何度も通過しているが、不思議なことに秩父神社へはまだ一度も立ち寄ったことがない。境内に示されている神社の沿革には次のようなことが書いてあった。



創建は第十代崇神天皇の御代で、知知夫国の十世の子孫である知知夫彦命（ちちぶひこのみこと）が先祖である初代国造（八意思兼命：やごころおもいかねのみこと）を祀った。

中世以降に秩父平氏が奉じる妙見信仰が加わり秩父妙見としても隆盛を極めたが、明治の神仏判然令により元の秩父神社に戻った。

そんな歴史を物語るように祭神は、八意思兼命・知知夫彦命・天之御中主神（あめのみなかぬしのみこと）の三本柱だったが、昭和 28 年に秩父宮雍仁親王が合祀されて四本柱になっている。

秩父夜祭りで繰り出す曳山は祇園祭（京都）高山祭（岐阜）と並んで日本三大曳山祭と言われ、重要無形文化財に指定されている。この祭りを一度は見たいものだと思っていたがまだ実現していない。祭の日が我ら夫婦の結婚記念日であることも奇妙な縁かもしれない。

本殿の正面に置いた看板に書いてある言葉が気になり撮影してきた。「親の心得」と標題が付いて

「赤子には肌を離すな 幼児には手を離すな 子供には眼を離すな 若者には心を離すな 秩父神社」。第一日目の旅程はこまでとし、町中の静かな佇まいの中にある一軒の宿に腰を下した。

◆秩父神社 <http://www.chichibu-jinja.or.jp/>

## 2-2 秩父吉田の白砂公園

朝食後ロードマップを見ながら、寄り道先の候補地をリストアップ。秩父にもカタクリの自生地がいくつもあるようなので、まずはもう一か所行って見ようということになり、9時過ぎに出発。場所は秩父市の北端で皆野町との境あたりの吉田という集落、道の駅の看板を見て「火薬を付けた竹のロケットを飛ばすイベント」で有名なロケットの村であることがわかった。北に背負うように立つ城峰山（1038m）の向こう側は神流湖になる。

大きな桜と鳥居がある駐車場に車を置いてカメラを持って散策開始。白砂公園は城峰山の前衛にな



る破風山（627m）の西麓の小尾根一帯を言うようだ。小尾根の腹に取り付き竹林を抜けると緩やかに下りカタクリ群生地帯に突入。昨日見た狭山丘陵のカタクリよりも色が濃く鮮やかさがあるので斜面一面の広がりには薄紫の覆いを被せたように見える。狭山丘陵が2

万本だとしたら、こちらは5万本いやそれ以上になるのかもしれない。

◆白砂公園 [http://navi.city.chichibu.lg.jp/p\\_flower/2294/](http://navi.city.chichibu.lg.jp/p_flower/2294/)



## 2-3 秩父34番札所水潜寺

白砂公園から県道37号線を東へ進むとすぐに皆野町に入る。左手に見える破風山を大きく回り込んで北側の谷（日野沢）に入ると、右岸の山中に秩父34番札所の水潜寺（結願寺）がある。

曹洞宗日沢山水潜寺が正式な名前。寺の名前に魅かれて行って見ることにした。道路からやや急な坂を上がって行くと六地藏が並びさらにその奥へと進むと本堂がある。本堂の奥の天然の絶壁の中に水潜りの岩屋があり、結願のお詣りの後で岩屋の中の湧水で身を清めてから俗世に戻ると言う習慣があったそうだ。

参拝路の出口の坂道に並ぶ三十三観音は、巡礼を終えて俗世に戻る人々を見送るような優しさが漂っていた。（右写真）



◆水潜寺 <http://www.chichibufudasho.com/chichibu34/introduction/34ban/>

## 2-4 秩父華巖の滝



日野沢を数Km遡って行くと、左岸に「秩父華巖の滝」の看板が建っている。これもまた名前に魅かれて立ち寄ることにした。名前からして滝の形はほぼ想像がつくが・・・。

入口の旧坂に建つ看板には「日本の美しい滝の10位」であることが示されていたが、この看板からは三つの不思議（驚き）を読みとれた。

その①は「本家本元の日光の華巖の滝が載っていない」こと、その②は「11位に千葉県の上野の滝」と書いてあるが、これは誤記で正しくは「栗又の滝（あわたたのたき）」であること。栗又の滝が西沢溪谷の七ツ釜の滝より上位にランクされていることが最大の驚きで、その③。

ともあれ秩父華巖の滝の滝壺まで行って見たが、一直線に落下する水流の白さと滝壺の赤紫がかかった岩の色が絶妙の味わいを示していた。

◆秩父華巖の滝 [http://秩父.lepi.info/post\\_51.html](http://秩父.lepi.info/post_51.html)

## 2-5 秩父28番札所橋立堂

華巖の滝の次は山中を走り抜けて吉田の里に戻り、いくつかの札所を車中から巡りながら浦山口の橋立鍾乳洞へ。ここは28番札所石龍山橋立堂で、一枚岩の巨大な岩場の横に堂があり、その隣に



鍾乳洞の入り口がある。拝観料を払って洞に入って見て驚いた。洞の三分の二が堅穴で、しかも水平移動する部分は天井が低いので腰をくの字に曲げなければ通過できない。急勾配の上り下りと中腰姿勢の歩行が続き、涼風のある洞窟内なのに汗をかいて一巡してきた。水流はないし石筍はわずかで、かすかな照明の中を不自然な格好で歩き抜けるだけ、洞内に掲示物も音声案内もなく静かで良いが、何か物足りない鍾乳洞歩きだった。ただの胎内潜りだと思えば良いのかもしれないが・・・。

◆橋立堂 <http://www.chichibufudasho.com/chichibu34/introduction/28ban/>

## 2-6 岩松山清雲寺

昨夜旅館に置いてあった観光案内のパンフレットを見て気になったので行って見ることにした。枝垂れ桜が美しい寺であると書いてあった。

橋立鍾乳洞から国道 140 号線に出て西に 1~2Km 走り、浦山口駅と武州中川駅の間地点あたりを南に入ったところにあった。駐車場に車を入れて歩き始めたら、枝垂れ桜を目当てに集まってくる人々を地元をあげて迎えている感じでそこかしこに有料駐車場があった。

寺の正式名称は、臨済宗建長寺派岩松山清雲禅寺。いたるところに枝垂れ桜が植えられており、実に壮観、来た甲斐がある寺だ。始めの内は曇り空だったが、青空が広がって来るとコントラストがはっきりして



来ることと光りの恵を受けることとで素晴らしい景色に変わってきた。



すぐそばに 29 番札所長泉院があるが行くのを止めて枝垂れ

桜に没頭。青空が広がるにつれて人の足も伸びてきたが、場所取りをしたり宴会をしたりする人は居ない。皆が枝垂れ桜見物だけに一生懸命になっていて都会の喧騒型の花見とは違う「花見の心」が感じられた。

◆清雲寺 [http://navi.city.chichibu.lg.jp/p\\_flower/2164/](http://navi.city.chichibu.lg.jp/p_flower/2164/)

## 2-7 雁坂トンネルを抜けて甲州へ

清雲寺の枝垂れ桜見物で今回の旅の「秩父の部」は終了して、今宵の宿に向けて出発。荒川に沿って国道 140 号線を西へ進むと谷は徐々に狭く深くなる。三峰口・大血川・大滝・栃本・・・奥秩父の山を歩いた日々のことを思い出す集落が車窓を去って行く。

昭和 38 年 11 月 22 日午後の電車を出かけて丹波(たば)の奥秋で丹波山荘に一泊(素泊り 250 円)。

二日目はサオラ峠に上がり前飛龍を経て飛龍山(2069m)で主稜線に入り将監峠(しょうげんとうげ)まで。峠の小屋について見ると、いつも風にはためいている日の丸の旗が見えず、旗竿の中央部にしなだれてぶら下がっている。訳を聴いて見て驚いた、J・F・ケネディが暗殺された。誰か登山客が持ってきたのだろうか、土間に散らかっている新聞にはかの有名な写真が大きく載り、小屋の管理人室のトランジスタラジオが騒々しく喋りまくっていた。

三日目はさらに西へ縦走し笠取山を越えて雁峠へ、そしてここから秩父側の滝川谷に下りて釣橋小屋・川又を経て二瀬ダムへ。釣橋小屋以降は尾根の腹に付けられた森林軌道の線路歩きが数時間続く。朽ちた枕木の下に滝川谷が大きな口をあけている恐ろしい下山路だった。おまけに二瀬ダムから出る三峰口行の最終バスに乗り遅れると今日中には帰れないという切羽詰まった行程。標高差 1500m 近くの長丁場の下りを終えて二瀬ダムに着いたらもう真っ暗闇だった。

国道 140 号線は栃本を過ぎると白泰山の腹を巻くようになり、ぐんぐんと高度を上げて行き、52 年前には一日がかりで登っても余りある長丁場だったことなど覚えてもいないかのような様相。

滝川トンネル・天狗岩トンネル・奥秩父トンネルと三つのトンネルを抜けると 6625m の雁坂トンネルが始まる。入口でわずかに左カーブをとった後はほぼ一直線で、闇に吸い込まれるような錯覚と恐怖を感じる。対面通行道路なので正面から来る車の照明で刺激を受けるから良いが、もし対向車

線から車が来なければ眠ってしまいそうなトンネルだ。

昔は秩父往還と言われたこの道は深く切れ込む谷を渉りながら急登を続け、海拔 2000m の雁坂峠を越えると言う難所だった。しかも秩父側・甲斐側双方に関所もあり交通の要衝だったと言うが、峠の北側も南側も近代に入ってから山奥の不便な地（陸の孤島という不名誉な代名詞）に変わった。このトンネルができたことで秩父の再奥地は甲府盆地と繋がり、首都圏へのアクセスルートも増えて「陸の孤島」の名を返上することになった訳だ。

雁坂トンネルを抜けると甲州、西沢溪谷から出て来る谷川の流れはやがて笛吹川となる。トンネルを出てから 5~6Km 下った笛吹川のほとりにある川浦温泉山県館が今宵の宿。

◆雁坂トンネル <http://www.fruits.ne.jp/~karisaka/>

◆川浦温泉山県館 <http://www.yamagatakan.com/>

### <3> 第三部：甲斐の部

#### 3-1 琴川ダム（乙女湖）と柳平

まずは柳平と乙女湖へ行って見ることにして出発。

昭和 53 年 11 月、恩田と車を使って「大弛峠から金峰山ピストン」だけという贅沢な登山をしたことがあった。帰り道で大弛峠から甲府盆地に下る途中で金峰山荘という民宿に泊ったことを思い出した。緩やかに下って行く道の前方に見え続ける秀麗な富士を今でも鮮やかに記憶している。町村合併が進んでこのあたりは牧丘町としてまとまってしまったが、あの頃は窪平・塩平・柳平と由来が気になるような地名が多かった。塩平は鼓川の上流、柳平は琴川の上流にあり、窪平は緩やかな裾野が消えて扇状地が始まる場所にある。このあたりには柚口・生捕・膝立などなど興味深い地名が並び、地図を見ているだけで退屈しない所だった。

牧丘町の旧室伏小学校跡辺りまで下ってきたら一面のブドウ畑の上に乗る富士山の景色にたまらず停車して撮影。（右写真上）国道 140 号線を離れて北上し、琴川に沿って登って行くと目の前に金峰山荘という看板を掲げた民宿が現れた。37 年前とあまり佇まいは変わっていないかった。徐々に道が狭くなって傾斜も急になると何度かへア



ピンカーブを繰り返した後乙女湖の湖畔に出た。見上げれば金峰山が五丈岩に雪をべったりと付けて聳え、見下ろす乙女湖は氷結の上に薄い残雪。（右写真下）柳平から窪平までのなだらかな曲線を描いて盆地に下りて行くふたつの尾根の間の窪みのような谷が乙女湖と言う名に変わっていた。この湖が山梨市あたりの住民の飲料水になり農業用水になり、ダムは自然災害防止の役割にもなっているようだ。（左写真：乙女湖からの下り道で見た富士）

#### 3-2 洞雲寺

奥秩父や大菩薩の山々を歩いていた時期に塩平の洞雲寺（どううんじ）の存在を知った。一度行ってみたいと思いつつも今日まで機会が得られなかった。

乙女湖から林道を走って焼山林道経由で洞雲寺へ行って見ようと思ったが、林道は冬期通行止めでゲートが閉まっていたので断念。止むなく琴川を下って小檜山を大きく回り込んで反対側の鼓川へ。至るところブドウ畑だらけで、道路にもフルーツラインと名が付いている。徐々に谷が狭くなり



はじめた集落に入ったら洞雲寺を示す案内看板が現れた。寺の正式名称は曹洞宗金峰山洞雲寺、八つ房の梅と枝垂れ桜が美しいと観光資料に書いてあった。車道から旧坂を上って数メートル上に広がる台地のようところに点々と並ぶ小さな石仏が出迎えてくれた。門口に石垣に置き石に植え込みに、様々なところに石仏が置かれており、それぞれの表情で時を刻んでいるように見えた。

小さな石仏に驚いていると次は釈迦の涅槃像とすぐ後ろに座す坐像、そして痩せこけた苦行僧の像、その先には 200 体余の水子地藏。樹齢 150 年の枝垂れ桜はまだ小さな蕾の状態だった。近くに食堂もコンビニもなく、ただ眼の前の景色を楽しむことに集中するしかないような所なので、穏やかな日差しを浴びて寺の敷地の中をじっくり散策してしばし時を忘れた。

◆洞雲寺 [http://www.yamanashi-kankou.jp/kankou/spot/p1\\_8326.html](http://www.yamanashi-kankou.jp/kankou/spot/p1_8326.html)

### 3-3 恵林寺

甲府盆地の底に向かってゆっくり下って行くこの辺りの道は、「盆地」という名前を肌で感じる道で氣にいらしている。笛吹川を渡り国道 140 号線を離れるとすぐに恵林寺。臨済宗妙心寺派乾徳山恵林寺（えりんじ）と言うのが正式な名前で、武田家の菩提寺でありこの辺りではシンボルのような寺である。

寺の外から見てもわかるほどの桜の賑いは、ちょうど見ごろの色艶と輝き。三門には快川国師が織田軍勢に焼き討ちにあった時に詠んだと言われる「心頭滅却すれば火も自ずから涼し」が書かれている。（右写真）

いくつもの建物の風格を助けるように、立派に咲いた色々な桜がまばゆいほど。寺の敷地内にあるお店でうどんを食べて腹ごしらえをしてからゆっくりと散策。地元の人たちの憩いの場らしく人の数が多いが、騒がしくないのが良い。池のある庭園は夢窓国師の築庭によるものらしい。

◆恵林寺 <http://www.erinji.jp/>



### 3-4 猿橋

恵林寺を出た後は、甲州街道（国道 20 号線）を東京に向かって土産物探しをしながらのんびりと歩くことにした。

笹子トンネルを甲州街道で抜けるのは何十年ぶりのことだろうか、高速道路を突っ走るのでは味わうことができない「トンネルに入る面白さ」「トンネルの中の面白さ」「トンネルを出る時の面白さ」を楽しんで見た。トンネルを抜けた後で徐々に視界が広がって来ると笹子の集落で、笹子餅と笹一酒造の看板がまだ元気に輝いているようで、懐かしいと同時にうれしかった。

大月を抜けて、日本三奇橋のひとつと言われる猿橋（右写真）を見物して上野原 IC から中央自動車道に入り、この旅は終了。

◆猿橋 <http://otsuki-kanko.info/see/4.html>



以上

◆この旅全体の地図はこちら

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/chichibu.jpg>

◆旅の面白画像はこちら

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/chichika.jpg>